

令和7年第2回市議会定例会一般質問一覧表

1 日 時 令和7年6月19日(木) 午前9時30分
令和7年6月20日(金) 午前9時30分

2 質問者 (質問順)

(1) 新緑水クラブ	80分	(1 秋 葉 みどり、2 坂 本 拓 也、3 早 川 康 司、4 中 村 義 幸)
(2) 市友会	20分	(5 工 藤 政 明)
(3) 公明党	40分	(6 井 上 純 一、7 蓑 手 純 一)
(4) 日本共産党議員団	20分	(8 加 藤 典 子)
(5) 子どもたちに青い空	20分	(9 村 瀬 進 治)

3 質問事項、要旨及び項目

質 問 者	1 秋 葉 みどり 議 員 （新緑水クラブ）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 学校内への不法侵入対策について	1 令和7年5月、東京都立川市の小学校において、男性2人が校舎内に不法侵入し、窓ガラスを割る等して暴れた上で、教職員を複数人負傷させ現行犯逮捕されるという事件が起きた。幸い児童に身体的な被害はなかったが、心理面への影響が懸念されるところである。本市の子どもたちにとって、学校が安心安全に過ごせる場であるために、その対策について問う	(1) 小中学校では、防犯対策はどのように行われているか (2) 教職員や児童生徒の危機対応力向上のために、どのような研修や訓練を行っているか (3) 立川市の事件を踏まえて、学校内への不法侵入の未然防止に向けた取組を進めるとともに、不審者侵入時対応避難訓練を行うことが必要と考えるがどうか	
2 放課後児童クラブの安心安全な運営について	1 本市ではすべての小学校内に放課後児童クラブが設置され、就労等により保護者が昼間家庭にいない児童を対象に、授業が終了した放課後等に適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全育成を行っている。在籍する子どもたちにとって、安心安全であるとともに、保護者に信頼される環境を整備するための運営方法について問う	(1) 過去5年間の登録児童数及び実際の利用児童数はどうか。また、放課後指導員はどのように配置されているか (2) 災害・事故発生時や不審者侵入時等の緊急時における行動マニュアル等はどのように整備されているか (3) 多様な児童が安心安全に過ごすことが出来るように、放課後指導員に対してどのような研修を行っているか	

3 障がい児通所支援について	1 障がい児通所支援には、児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援がある。利用するためには、市へ申請し通所受給者証の交付を受ける必要があるが、市内の相談支援事業所にて障害児支援利用計画案を作成する場合、近隣市町より支給日数が低く設定されているという声を聞く。障がいを持ったすべての子どもたちが豊かに社会で生きていけるよう、必要な支援の方向性について本市の考えを問う	(1) 現在、児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援の支給決定を受けている児童数及び支給日数はどのようなか。また、近隣市町と比較してどのようなか (2) 放課後等デイサービスと市の放課後児童クラブを併用している児童に対し、どのような支援を行っているか。その場合、放課後児童クラブでは放課後指導員の加配はあるか (3) 市内の相談支援事業所とどのような連携を行っているか (4) 児童及び保護者の実情や意向に寄り添った柔軟な支給決定に努めるべきと考えるがどうか	
4 子ども食堂への支援について	1 無料または低額で食事を提供する子ども食堂が、全国で広がっており、少子高齢化や人口減少が進む中、子どもの貧困対策だけでなく地域の交流の場としての役割も強まっている。半田市では、ほぼすべての小学校区に子ども食堂が開設され、市の広報による周知も行われているほか、近隣の大府市や知多市では運営に対する補助金を支給する等の支援の輪が広がっている。子どもの孤立を防止し、健やかな成長を促すと同時に、世代を超えた交流の場となる子ども食堂に対する本市の考えを問う	(1) 本市での子ども食堂の開設状況をどのように把握しているか (2) 子ども食堂を開設し運営する団体からは、どのような相談が寄せられているか。また、それらの課題をどのように捉えているか (3) 身近な地域の中で子どもを見守り、子どもの居場所として活動している子ども食堂を支援するため、運営にかかる経費の一部を補助すること等が必要と考えるがどうか	

5 職場における熱中症対策について	1 令和7年6月1日より、労働安全衛生規則の一部改正が施行され、職場における熱中症対策が義務化された。一定の条件を満たす作業を行う企業はすべて対象となり、対策を怠った場合には罰則がある。本市で働く職員の作業環境や対策について問う	(1) 条件の対象とされる「暑さ指数28度以上か、気温31度以上の環境下で連続1時間以上または1日4時間を超える作業」を行う職場はあるか (2) 条件に当てはまる職場において、どのように対策をとっていくか	
	2 本市では、学校給食センターで調理された給食が各学校に配送され、子どもたちに提供されている。各教室に配膳するための給食配膳室は、夏場は大変な高温となり、提供される給食の食中毒発生の危険性に加え、そこで長時間作業にあたる職員の熱中症が大変懸念される。子どもたちに安心安全な給食を提供し、給食配膳室で働く職員の熱中症対策を行うために、本市の考えを問う	(1) 給食配膳室の室温は、どのように管理されているか。また、夏場における作業時の室温はどうか (2) 給食配膳室では、どのような作業が行われているか。また、そこで作業する職員に対し熱中症対策はされているか (3) 子どもたちに安心安全な給食を提供し職員の熱中症対策を行うためには、給食配膳室に空調機を設置すべきと考えるがどうか	

質 問 者	2 坂 本 拓 也 議 員 （新緑水クラブ）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 高齢者支援の拡充について	1 東海市、大府市を管轄する東海警察署管内の特殊詐欺による令和6年の被害状況は、総額で約2億6,620万円と県内ワースト1位となり、異例の数字と言われている。近年増加している特殊詐欺から高齢者を守る取組について本市の考えを問う	(1) 本市では、令和6年の特殊詐欺の被害状況をどのように把握しているか (2) 65歳以上の単身高齢者に対して、ダイレクトメールでの通知等により注意喚起する取組は、高齢者の財産を守る手段として有効であると考えているかどうか	
	2 身寄りのない高齢者で、自分が亡くなっても困る家族がいないという理由で終活をされない方もいるが、終活をすることにより、新たな人間関係ができ、孤独死の防止につながるだけでなく、自身の葬儀や埋葬方法、財産の承継を希望する形で実施することが可能となる。そこで、残りの人生を楽しむための終活支援についての取組の考えを問う	(1) 本市における単身高齢者数の今後の推移をどのように見込んでいるか (2) 身寄りのない単身高齢者が、自身が亡くなった時に想定される課題を認識し、終活のための準備を支援する取組の考えはどうか	

2 子どもの意見・立場の尊重について	1 本市では東海市こども計画を策定し、子ども・若者の権利を尊重し、子ども・若者の最善の利益を図ることを目指した取組を推進している。その一端として、子ども・若者が、権利の主体であることを啓発すると共に、子ども・若者の立場にたった支援を推進するため、子ども・若者のオンライン意見箱を実施している。 「こども未来会議」で提案された意見の市政への反映状況と併せ、今後の子どもからの意見を市政に反映していく取組について問う	(1) 子どもや若者の意見をどのような方法で聴取しているのか。また、聴取した意見に対してどのような方法でフィードバックしているか (2) 「こども未来会議」で提案され、県内で初めて本市が設置した横断者注意喚起灯に「こども未来会議での提案により実現」等、表記する考えはどうか (3) 子どもや若者の市政への関心を高めるとともに、自立心を養うため、子どもたちから出た意見を、子どもたち自身が協議しあう「子どもの政策協議会」のような取組を実施する考えはどうか	
3 地域における小中学生の活動環境について	1 本市では、令和4年度から小学校の課外活動が廃止され、令和7年9月からの中学校の部活動改革に伴い、中学校部活動の地域展開を推進している。このような中で、児童生徒のクラブ活動の選択肢を広げることは、豊かで健全な成長にも寄与すると考える。一般社団法人スポーツクラブ東海が運営する「ジュニアクラブ」の参加種目の拡充による部活動の地域展開の推進等、地域の持続可能で多様なクラブ活動環境の整備について問う	(1) 部活動の地域展開後の受け皿と位置付けている「ジュニアクラブ」での、現在の実施予定種目をどのように把握しているか。また、幅広い種目に参加できるよう種目数等の拡充を支援する考えはどうか (2) 学校体育施設スポーツ開放の利用登録団体が、利用可能な施設はどのようなか。また、小学校の課外活動の廃止や中学校の部活動地域展開に併せて、利用できる学校体育施設を拡充する考えはどうか	

	2 小学校の音楽教室には、使用可能な楽器が保管されていると聞いているが、吹奏楽地域クラブの活動方針及び小学生が気軽に音楽に触れるための活動の場の創出について問う	(1) 本市教育委員会が運営主体となる吹奏楽地域クラブについて、どのような活動を考えているか (2) 小学校でのこども教室で、地域で指導している方による、気軽に吹奏楽に触れる機会を創出する考えはどうか	
4 魅力あるイノベーションの創出について	1 令和6年10月に名古屋市鶴舞に開業した日本最大級のオープンイノベーション拠点である「STATION Ai」がスタートアップ企業等から注目を集めているが、本市におけるイノベーション創出につながる創業支援の取組について問う	(1) 「STATION Ai」で実施しているスタートアップ支援・事業創出支援事業について、市としてどのように把握しているか (2) 本市において実施している創業支援の取組はどのようなか	
	2 愛知県ではデジタル技術を活用して、健康寿命延伸と生活の質の維持・向上に向けた「あいちデジタルヘルスプロジェクト」を立ち上げ、本市はその推進母体となる「あいちデジタルヘルスコンソーシアム」に特別会員として参画しているが、今後の本市の取組について問う	(1) あいちデジタルヘルスプロジェクトに参画している本市の目的と活動状況はどのようなか (2) 本市において、今後はどのような取組を検討しているか	

質 問 者	3 早 川 康 司 議 員 （新緑水クラブ）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 高齢者等の住まいに関する支援について	1 令和7年4月に施行された改正生活困窮者自立支援法及び同年10月に施行予定の改正住宅セーフティネット法により、国土交通省と厚生労働省の連携が強化され、高齢者や低所得者等の住まいに関する支援が大きく変わろうとしている。住まいのハード面の整備に加え、「見守り」や「安否確認」等のソフト面の支援体制も求められる中で、本市としての支援体制の構築と関係機関や事業者との連携の方向性について問う	(1) 住まいに関する相談内容の現状と今後の相談支援体制はどのようなか (2) 本市が行う居住サポート住宅の認定体制はどのようなか (3) 居住サポート住宅のソフト面である「見守り」、「安否確認」及び「福祉サービスへのつなぎ」について、どのような確保が考えられるか (4) 入居者死亡後の残置物の処理を円滑にする取組はどのようなか (5) 本市の居住支援協議会の設置に関する考えはどのようなか	
2 大学等と連携した地域活性化の推進について	1 本市では大学連携まちづくり推進事業費補助金等を通じて、地域課題の解決や地域の活性化を図るとともに、地域社会との関わりの中で得られる学生の学びと成長の機会を創出する取組が実施されている。今後は、より多様な主体との連携や補助金制度の柔軟な活用により、地域活力のさらなる向上が期待されている。こうした補助金制度の実効性を高め、事業の波及効果を広げていくための方策について問う	(1) 補助金を活用して実施する事業の目的と過去3年間の大学連携まちづくり推進事業の採択件数及び補助金の交付額はどのようなか (2) 採択事業は、どのように担当課と情報共有しているか。また、地域の課題解決のヒントとなった事例や継続事業として生かされた事例はあるか (3) より広い波及効果を生み出すために、補助事業の成果等について、市民や他団体と共有する必要があると考える。今後、大学と企業・事業所や地域団体等の多様な主体と連携したまちづくりを推進する上で、本市として支援策等を考えてはどうか	

3 ネット環境を活用した多世代交流等について	1 本市では、公共施設へのWi-Fi環境の整備が進められ、中高生への学習スペースの開放に伴う学びの機会の拡充や、高齢者のデジタルデバイス解消等に繋がる取組が行われてきた。今後は、子どもや高齢者のみならず、市民全体が学び・交流できるさらなる活用が期待される。インターネット環境を活用した多世代交流の促進や地域の活性化にも繋がる方策について問う	(1) 地区公民館・市民館では、Wi-Fi環境整備後に中高生への学習スペースを開放するとしているが、学びの機会の拡充以外に期待される効果はどのようなか (2) Wi-Fi環境を活用した、高齢者の外出促進に繋げる取組はどのようなか (3) 創造の杜交流館では、「多世代交流の場」がコンセプトの一つとなっているが、今後の事業展開はどのようなか。また、さらに世代を超えた交流や地域の活性化にも繋がるイベントとして、eスポーツ大会のような企画をしてはどうか	
4 子ども・若者のまちづくりへの参画について	1 こども基本法やこども大綱、そして本市のこども計画においても、子ども・若者が意見を表明し、社会に参画できる環境づくりが重要とされている。子ども・若者が身近な課題を捉え、自ら意見を表明し、企画・実行する活動を支援することは、子どもの主体性や社会参画意識の醸成に大きく寄与すると考えられる。本市における、次代を担う子ども・若者のまちづくりへの参画を促すための取組について問う	(1) こども家庭庁が行っている「こども若者★いけんぷらす」を参考として、特定のテーマについて、子ども・若者から意見を聴く仕組みを検討してはどうか (2) 子ども・若者が身近な課題を捉え、主体的に関わる機会として、現在どのような取組が行われているのか。また、その実施状況及び現時点における課題について、どのように認識しているのか (3) 子ども・若者自らが提案し、企画・実行できるような取組が必要と考えるが、これを広く協働によるまちづくりの仕組みの中で検討してはどうか	

質 問 者	4 中 村 義 幸 議 員 （新緑水クラブ）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 安心安全、快適な道路整備について	1 国土交通省のガイドライン等では、通学路を含む歩道は車椅子使用者2人がすれ違える幅（最低でも2メートル以上の幅員）とされている。本市の通学路の安全性について問う	(1) 通学路について、歩道幅員が狭い等、危険箇所の有無を把握しているか (2) 幅員が狭い歩道に対しての対策はどのようなか	
	2 市内通学路や主要な歩道について街路樹の植栽位置や、根の張り出し、または乗入れの段差等によって歩道が著しく狭くなり、歩行者や車椅子利用者の通行を妨げている箇所が見受けられる。特に高齢者やベビーカーを利用する家庭にとっては安全が脅かされる重大な課題であると認識している。市として通行の安全性の現状把握及び改善に向けての方針、整備の優先順位について問う	(1) 市内の街路樹が原因となって歩道の有効幅が確保できていない路線が見られるが、街路樹の設置について市としての基準はどのようなか (2) 老朽化の進む街路樹が市内各所に見られるが、街路樹の剪定や伐採等の対応はどのような基準で判断しているか (3) 伐採後の街路樹への今後の対応をどのように考えているか	
	3 市民にとって朝夕の渋滞は非常にストレスだと思われる。特に臨海部企業へ通勤する人や西知多道路の利用者にとって朝夕の渋滞は耐え難い。西知多道路の拡幅工事に伴い横須賀インターチェンジ、加家インターチェンジの改良工事も行われる予定だが、快適な市民生活のための渋滞緩和策について問う	(1) 横須賀及び加家インターチェンジの渋滞状況は把握しているか。また、車線数を増やす等の渋滞対策はどのようなか	

2 町内会・自治会の活性化について	1 近年、町内会・自治会の役員等の担い手不足や加入率の低下が全国的な課題となっており本市でも同様の傾向にある。しかしながら、町内会・自治会は、防犯、防災、高齢者の見守り等、地域住民の身近な安心安全を支える重要な役割を担っている。町内会・自治会の活性化をはじめ持続可能な地域づくりを実現するための取組について問う	(1) 直近5か年の町内会・自治会の加入率の推移はどのようなか (2) 町内会・自治会の課題をどのように把握しているのか。また、町内会・自治会に加入するメリットをどのように考えているのか (3) 町内会・自治会の未加入世帯への周知・啓発はどのように行っているのか。また、市公式SNSの活用については、どのように考えているのか (4) 町内会・自治会役員の負担軽減策として、電子回覧板や会費のオンライン集金の導入に向けた支援をする考えはあるのか (5) 各町内会・自治会と市民活動団体等の連携等を促進するための仕組みづくりを検討すべきではないか	
3 持続可能な子ども会の運営について	1 子ども会活動は、様々な体験を提供し、子どもたちの豊かな心を育む貴重な役割を果たしており、その存在は地域に根差した活動の一つとして欠かせないが、少子化や担い手不足による活動団体数の減少という課題を抱えている。子ども会への加入を促進し、持続可能な地域の子育て環境とするための取組について問う	(1) 子ども会への加入団体数の過去3年間の推移はどのようなか (2) 持続可能な子ども会運営のために実施している取組はあるか。またその課題は何か (3) コミュニティ・町内会・自治会で行われている子ども行事を、学区子ども会の行事として実施する考えはあるか (4) 学区子ども会の使用する公共施設の使用料を減免にしてはどうか	

4 防災型地域活動の創設について	1 現在、国の方針に基づき、令和8年度を目途に中学校の部活動の段階的な地域展開が進められている。部活動指導者の担い手不足や種目偏在が課題となる中、生徒の学びや地域の力を高める「新しい部活動のあり方」が求められている。新たな部活動の選択肢として、重要な行政課題の一つである自然災害に備えた地域防災力の強化につながる活動について本市の考えを問う	(1) 防災部や地域防災クラブのような、社会的・地域的意義のある活動機会の創設について、教育委員会の見解はどうか (2) 学校や地域が主体的にモデル事業を立ち上げた場合、前向きに支援協力する考えはあるか	
5 子どもたちへの平和教育について	1 本市では、毎年沖縄で平和学習を含めた体験学習が行われている。一方、現在もなおロシアとウクライナ、ガザとイスラエルといった地域での戦争や紛争が続き、その様子が日々ニュースやSNSを通して子どもたちの目に触れている。こうした時代に生きる子どもたちに、戦争の悲惨さ、平和の尊さを教え、心の中に「平和」の価値観を育てていくことが重要である。戦後80年を迎えるにあたり学校教育の中での平和教育のあり方について問う	(1) 現在、市内の小中学校の授業において、世界で起きている戦争や紛争に関する現実をどのように扱っているか (2) 愛知県内や近隣自治体にも戦争遺構や被爆体験を語り継ぐ方がいる。そうした貴重な地域資源を活用し、児童生徒が平和の大切さを自分の住む地域とつなげて考える「地域型平和教育」の取組を進める考えはないか (3) ニュースやSNSで悲惨な戦争等の映像・情報に日常的に触れている子どもたちに対し、学校現場ではどのように配慮し、心のケアや指導を行っているか (4) 道徳や総合的な学習の時間を活用し、平和教育から平和構築教育へと発展させる取組を、市として今後どのように支援・推進していく考えか	

質 問 者	５ 工 藤 政 明 議 員 （市友会）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 災害に強いまちをつくる取組について	1 令和7年3月31日に内閣府中央防災会議の有識者会議は、南海トラフ地震が発生した場合の新たな被害想定を公表し、犠牲者の数の最大は平成24年に公表した約32万3千人から減少したものの約29万8千人という甚大な被害となる可能性があることを示している。これにより、南海トラフ地震に対する市民の関心は大きく高まったと想像する。南海トラフ地震の被害想定及び対策について、本市の状況と考えを問う	(1) この度と平成24年に公表した被害想定の違いをどのように把握しているのか。また、犠牲者の数が最大となる地震発生の時期及び気象条件等はどのようなものなのか (2) 本市内の最大震度や津波の最大高さ及び最短到達時間をどのように把握しているのか。また、その数値はこれまでの想定と変化はあるのか (3) 国は被害を軽減させるため、南海トラフ地震防災対策推進基本計画を改定する動きを示しているが、改定する時期や方向性をどのように把握しているのか (4) この度の新たな被害想定を公表を受けて、市民へ大地震から身を守るための注意喚起等の周知・啓発を改めて行う必要があると考えるが、周知・啓発の時期等進め方をどのように考えているのか	
	2 本市を含む愛知県は、南海トラフ地震が発生した際には大きな被害が出るのが想定されており、その犠牲者の多くは建物倒壊によるものとされている。建物倒壊による被害の軽減が期待できる住宅の耐震化について、本市の状況と考えを問う	(1) 住宅耐震化率の算出方法はどのように定められているのか (2) 住宅耐震化率は調査年度毎に改善を示しているが、その理由をどのように把握しているのか。また、住宅の耐震化を促進するための問題点や課題はどのように整理され、対応策は立案されているのか (3) 令和7年度に予定されている建築物耐震改修促進計画策定事業の事業内容はどのようなものなのか (4) 耐震性が不十分な住宅に防災ベッドや耐震シェルターを設置した場合は、耐震改修工事が施されていると見なすことになるのか	

2 水道水の安全安心を確保する取組について	1 普段の生活で1日に1人で約300リットルの水を使用することから、水道水は暮らしに欠くことの出来ない大切なものである。最近では、家電製品をはじめ家庭で使用する様々な機器において節水型の普及が進んでいるところではあるが、限りある資源でもある水源から供給される水道水の重要性を市民に理解・啓発する取組について、本市の状況と考えを問う	(1) 令和5年度における本市の水道水の使用量は1日1人283リットルとの報告があるが、近隣市町の使用量をどのように把握しているのか。また、差の要因をどのように考えているのか (2) 節水の実施は水源の貯水量等の条件により異なると想像するが、愛知県営水道から本市への節水対策はどのように示されるのか。また、本市の水道水の利用者にはどのように示され、節水に努めることになるのか (3) 本市には愛知用水と長良導水の2水系から給水を受けているが、節水対策に水系による違いはあるのか (4) 普段から水道事業への理解・啓発を促すことが重要と考えるが、日頃からの水道事業に関する市民への理解・啓発する取組はどのように行われているのか	
3 野良猫と地域の共生を目指す取組について	1 野良猫と呼ばれている特定の飼い主がいない猫を地域で適切に飼養・管理する地域ねこ活動について、本市の状況と考えを問う	(1) 活動する団体の登録及び廃止の数をどのように把握しているのか。また、活動団体となるための登録や届出の要否及び活動内容の条件はどのように定められているのか (2) 団体が活動した効果及び団体が抱えている問題点や課題をどのように把握しているのか (3) 県、市及び地域ねこ活動団体は野良猫の引き取りや保護を行っていないとのことだが、野良猫が自宅敷地内等で子猫を産む等で野良猫の引き取りや保護を望む市民に対し、本市はどのような対応を講じているのか (4) 猫の避妊及び去勢の手術経費をどのように把握しているのか。また、活動団体が手術費用を賄う方法をどのように把握しているのか (5) 令和6年度の猫避妊等手術費補助金の交付実績はどのような状況なのか (6) 市に登録している活動団体はどのような支援策を受けることが出来るのか。また、活動に見合った補助金の交付等、支援策を充実する必要性をどのように考えているのか	

4 自動車等運転資格の適切把握の取組について	1 出張をはじめとする勤務で自動車等を運転する職員が取得している運転資格の把握について、本市の状況と考えを問う	(1) 勤務で自動車等の運転が必要となる職員は何名か。また、全職員に対してどのような割合になるのか (2) 職員が取得している運転免許証の種類や有効期限等の確認はどのような方法及び頻度で行われているのか (3) 運転免許証の現物確認はどのように行われているのか。また、マイナ免許証に記録された免許情報を確認する方法は整えられているのか (4) 自動車等の運転資格の確認は、運転免許証の取得後もしくは更新後に所属長等が免許証の現物を確認し運転資格の把握に務めるべきと考えるが、そのような方法を採用する必要性をどのように考えているのか	
5 救急要請に迅速に対応する取組について	1 令和4年から3年連続で過去最高を更新する等かねてから救急出場の件数は高い水準が続いている。絶え間なく寄せられる救急要請に応じる救急出場及び救急隊員の活動について、本市の状況と考えを問う	(1) 令和6年の救急出場における現場到着所要時間及び病院収容所要時間はどのような状況なのか。また、令和元年以降はどのような推移を示しているのか (2) 現場到着所要時間及び病院収容所要時間を短縮する取組はどのように行われているのか (3) 市内には自動車専用道路が3路線通っているが、本市消防本部の管轄はどのように定められているのか。また、路上等で活動する救急隊員を交通事故から守る取組はどのように行われているのか (4) 救急隊員の精神的かつ肉体的な負担を軽減させる取組はどのように行われているのか。また、負担軽減のために、市民に理解や協力を呼び掛けるものはあるのか (5) 救急隊を強化もしくは高度化する必要性をどのように考えているのか	

質 問 者	6 井 上 純 一 議 員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 若者が住みたくなるまちづくりについて	1 尾張横須賀駅周辺には、尾張横須賀まつりの山車文化と無電柱化した道路、横須賀図書館、令和7年5月にオープンした創造の杜交流館、更に駅構内に、アマチュア音楽家が集うライブカフェ等、多様な文化コンテンツが揃っていることから、駅前ロータリーの整備に合わせ、若者が集いたくなる、住みたくなるまちづくりに向け、駅前広場を整備すべきと考え、本市の取組を問う	(1) 尾張横須賀駅西口のエスカレーターを撤去し、若者が集いたくなる広場を整備してはどうか (2) 駅及び創造の杜交流館周辺の更なる駐車場の整備を検討すべきと考えるがどうか	
2 戦後80周年企画開催事業について	1 戦後80年を迎えるに当たり、創造の杜交流館で戦争の悲惨さや平和の大切さを伝える周年企画が予定されている。子どもたちや若い世代が気軽に訪れ、学びながら楽しめるイベントとすべきと考え、本市の取組について問う	(1) 戦争の悲惨さと平和の大切さを子どもたちや若い世代が学びながら楽しめるイベントとなるよう検討してはどうか	
3 災害時の福祉的支援について	1 令和7年通常国会で改正された災害対策基本法に災害関連死ゼロを目指す「福祉サービスの提供」が明記された。今後、災害時避難行動要支援者の在宅避難を含めた福祉支援を強化することになるが、本市の今後の展開について問う	(1) 東海へいしゅうくんネットワークを活用した在宅避難者支援の取組はどのようなか (2) 法改正を受け、今後、訪問福祉支援についてどのように取り組むのか (3) 要支援者が安心して避難生活を送るために、市内の指定福祉避難所を更に拡充すべきと考えるがどうか	

4 こども誰でも通園制度について	1 本市の幼児保育事業における最大の課題は、保育士の確保である。令和8年度から始まる「こども誰でも通園制度」実施に当たり、保育士確保策と共に、民間保育施設との連携を強化し、市内の保育資源をフル活用して子育て世帯のニーズに応えるべきと考え、本市の取組について問う	(1) 本市の過去5年間の3歳未満児の認可保育所等への入所率及び待機児童の推移はどのようなか (2) 保育士不足解消に向け、どのような取組をしているのか (3) 本市の公立保育園で、何園が「こども誰でも通園制度」を実施可能か。また、受入れ可能人数は何人か (4) 民間保育施設を活用し、子育て世帯のニーズに柔軟に対応すべきと考えるがどうか	
5 高齢者の生活支援について	1 高齢化の進行により介護需要が増す中、ケアマネージャーの人材不足が深刻化している。愛知県も介護人材確保支援を強化する中、知多北部広域連合の県補助金の活用状況及び介護人材確保策について、本市の支援の在り方を問う	(1) 知多北部広域連合における愛知県の介護人材資質向上事業費補助金の活用状況をどのように把握しているか (2) 知多北部広域連合の介護人材確保の取組に対する本市の支援の在り方はどのようなか	

質 問 者	7 蓑 手 純 一 議 員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 がん患者へのアピアランスケア支援について	1 本市ではがん患者に対して医療用ウィッグや乳房補正具の購入費用の補助を実施しているが、顔面や手指の欠損等に対応するエピテーゼ（人工装具）の購入支援は行っていない。外見の変化による心理的負担を軽減するには、ウィッグや乳房補正具だけでなく、包括的なエピテーゼ購入支援が必要であると考えます。エピテーゼの購入補助制度の拡充に関する本市の対応について問う	(1) がん患者医療用補正具購入費用補助金制度におけるこれまでの申請状況はどのようなか (2) がん患者へのエピテーゼの必要性について、市はどのように認識しているか (3) 今後、がん患者へのアピアランスケア支援の拡充として顔面や手指の欠損等に対応したエピテーゼの購入を補助対象に追加する考えはどのようなか	

2 HPVワクチンの接種状況について	1 HPVワクチンのキャッチアップ接種及び定期接種の現状について、本市では接種対象者への周知を進めているものの、接種率は依然として低水準にとどまっている。特に、積極的勧奨が一時控えられていた世代へのキャッチアップ接種が課題となっており、接種機会を確実に提供するための施策が求められる。接種率向上のためには、個別通知や医療機関からのより一層の勧奨の強化が必要であり、電子メールや郵送によるリマインドを実施することで接種率を改善できる可能性もある。また、保護者や対象者への情報提供を充実させることで、ワクチンに対する誤解を払拭し、接種の促進につなげることが重要となる。こうした課題を踏まえ、本市の今後の対応について問う	(1) キャッチアップ接種の対象である平成9年度から平成19年度生まれと、令和6年度が定期接種最終年度であった平成20年度生まれの市民の本市における令和6年度までの接種率はそれぞれどのようなか (2) 令和6年度において、キャッチアップ接種対象者や令和6年度が定期接種最終年度であった市民へのワクチン接種勧奨はどのように行われたか。また、令和7年度末まで公費負担が延長された市民に対する今後の接種勧奨をどのように考えているのか (3) 今後のワクチン接種率の向上に向けた取組はどのように考えているか	
3 業務上の公用車運転管理等について	1 本市では公用車を所有し、業務で活用しているが車両管理とともに、職員の運転管理が重要な課題となっている。特に免許の更新状況、車検満了日の管理及び安全運転研修の実施について、現状の管理体制と今後の改善策について問う	(1) 職員の免許更新状況について、市はどのように管理しているか。また、更新忘れ防止策はどのようなか (2) 公用車の車検満了日管理の現状及びその適正な実施に向けた体制はどのようなか (3) 職員向けの安全運転研修の実施状況及び今後の強化策について、市の考えはどのようなか	

4 ひきこもり支援について	1 本市のひきこもり支援は、これまでコンソーシアム契約の形で複数機関が連携して行われてきたが、現在は二者間契約へと変更されている。支援の質や提供体制の変化及び今後のひきこもり支援の方向性について問う	(1) コンソーシアム契約から二者間契約への契約形態の変更によって、支援体制や提供サービスにどのような影響が生じると考えているか (2) 今後のひきこもり支援を充実させるために、市としてどのような改善策や拡充計画を検討しているか	
----------------------	--	--	--

質 問 者	8 加 藤 典 子 議 員 （日本共産党議員団）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 貧困対策について	1 令和6年からの物価高騰に加えて、米不足まで起きており、市民の生活のひっ迫が危惧される昨今である。非正規労働者のワーキングプアの増加や、賃金の男女格差が大きいことによる女性の貧困、子どもの生活においても塾や習い事等で格差が生まれている。また、高齢者の大半が年間200万円以下の年金で生活している貧困層であり、現役時代の生活から切り替えることが困難になっていると聞いている。市民の生活を守ることは市の最も大切な役割であると考え、本市の姿勢を問う	(1) 生活保護件数は、過去5年間でどのように推移しているか。また、米の価格高騰で米が買えないという相談はなかったか (2) 税金の滞納者の状況はどうか。また、その対策等をどのように行っているのか (3) 生活保護を受けられない基準の境目にいる市民の暮らしを支える手立てとして、国民健康保険税の減免措置の拡大を検討すべきではないか (4) すべての子どもたちに、教育の無償化を実行すべきではないか	
2 就学援助について	1 就学援助制度は、生活保護世帯や市町村民税の非課税世帯等に該当し、経済的に困窮していると認められた方が対象となる。しかし、就学援助の対象となる内容は自治体で差があり、支援を拡大する必要があると考え、本市の支援策の更なる充実について問う	(1) 多くの自治体が、クラブ活動費や生徒会費、PTA会費及び体育実技用具費等を就学援助の対象としているが、本市も対象とすべきではないか (2) 就学援助の認定対象基準は、生活保護基準額の1.3倍に準じているとのことだが、格差の解消を図るために基準を見直すべきではないか	

3 子ども食堂について	1 子どもの孤食や家庭の貧困等を背景に、子ども食堂が全国的に広がりを見せている。この取組では、温かい食事の提供はもちろん、子ども同士・親同士の交流や世代を超えたつながりが生まれている。また、他の地域では、コミュニティを広げる取組として、子ども食堂の新規開設の動きもみられる。しかし、開設し継続していくためには、食材や場所及びスタッフの確保等の課題があり、継続することのハードルが高いことから本市の子ども食堂に対する考えを問う	(1) 貧困対策としての子ども食堂の必要性をどのように考えているか (2) 民間事業所頼みではなく、本市主導で目的を明確にし、小学校の学区毎に子ども食堂を開設すべきと考えるがどうか	
4 職員の定数について	1 職員の定数は条例で定められているが、職員不足を感じる部署があるのではないかと。特に市民の命と生活を守る仕事は定数を満たすべきと考えることから、本市の令和7年度の体制について問う	(1) 令和6年度において、消防職員は定数未満であったが、令和7年度において消防職員の定数は充足されたか。また、救急車が増台される予定だが、体制の整備状況はどのようなか (2) 保育園は会計年度任用職員が正規職員より多い状態であるが、保育士の欠員はないのか (3) その他の部署で職員不足はないか。また、職員からの意見や要望が聞き入れられる体制はできているか	

質 問 者			
9 村 瀬 進 治 議 員 (子どもたちに青い空)			
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 市民との対話機会の創出について	1 市の代表者である市長が市民と直接、意見交換することは、市民の思いを聞き、市長の考えを伝える機会として非常に重要なことであると考え。2期目の市政運営に当たり市長自らが市民と直接対話する機会創出の考えについて問う	(1) 市長と市民が直接対話する「市民と語る会」を市内各所で開催する考えはいかん。また、市長が出席できない場合には、市の幹部職員が市長に代わり、「市民と語る会」に出席する等、市民と対話する機会を創出する考えはいかん	
2 市職員の時間外勤務について	1 本市職員の令和5年度の時間外勤務は、大府市の約2倍となる年間約14万時間に上ると聞いており、職員の健康管理上の問題や人件費の増大が懸念される。業務を効率化したうえで、時間外勤務を縮減する取組実施の考え等について問う	(1) 大府市と比較して、本市職員の時間外勤務が約2倍と多くなっている原因の分析状況はいかん (2) これまでに実施してきた時間外勤務を縮減するための取組及び効果はいかん (3) 業務を効率化したうえでの時間外勤務の縮減に向けて、新たな取組実施の考えはいかん	
3 新たな期日前投票所の設置について	1 現在、期日前投票所は、市役所及び芸術劇場の2箇所に設置され、市の中心部に偏っている状況であるが、投票環境の向上に向けて、新たに建設された創造の杜交流館やしあわせ村に期日前投票所を設置する考えについて問う	(1) 市の南部に位置する創造の杜交流館や北部に位置するしあわせ村に期日前投票所を設置することは、有権者である市民が真に望んでいることであると考えるが、設置に向けた協議を行う考えはいかん	
4 降下ばいじん被害の救済について	1 市南部地区では、長年にわたる降下ばいじん被害が深刻化しており、救済措置を求める市民の声を多く聞いているが、市として救済措置を実施する考えについて問う	(1) 発生原因者の一つであると考えられる臨海部企業からの税収を原資として、降下ばいじん被害に苦しむ市南部地区の住民の市民税の減額や電気代の補助、水道料金の無償化を実施する考えはいかん。また、特に降下ばいじん被害が深刻な養父地区に無料の洗車場を整備する考えはいかん	

5 高横須賀町城山地区の道路照明について	1 高横須賀町城山地区の農道に、長年にわたり道路照明を設置するよう求めているが、市は同じ回答を繰り返すばかりで、これまで一切対応してきていない。先日、当該地域の住民を中心とした署名と共に道路照明設置の陳情書が市に提出されたと聞いているが、市民の声を尊重して、同地区に道路照明を設置する考えについて問う	(1) 地域住民からの署名を伴う陳情に対する市の受け止めはいかに。また、陳情内容に対する市の見解はいかに (2) 今回の陳情を受けて、市としてこれまでの考えを改め、以前から最近まで不審者も出没し、非常に危険な道路であると思われる当該道路に道路照明を設置する考えはいかに (3) 当該道路において、事故や犯罪等が発生した場合の責任の所在はいかに	
6 ごみ指定袋制度について	1 平成7年度から実施されているごみ指定袋制度では、現在に至っても多くの市民が望んでいると思われるごみ指定袋種別間の等量交換を認めていないが、制度を見直す考えについて問う	(1) 現在のごみ指定袋制度を導入して約30年が経過するが、これまでの市民の意見を取り入れた制度の見直し状況はいかに (2) ごみ指定袋種別間の等量交換について、市民の声を聴取する考えはいかに。また、その結果、ごみ指定袋の等量交換を望む声が多い場合、制度を見直す考えはいかに	
7 市民体育館周辺道路の渋滞緩和について	1 西知多道路の横須賀インターに向かう国道155号が通勤時間となる早朝は渋滞がひどく、近隣住民の生活にも支障をきたしていることから、県に対し車線を増やす等の渋滞緩和措置を求める考えについて問う	(1) 横須賀インターに続く国道155号の渋滞緩和のため、東海警察署東交差点への直進車線の増設を早期に完了するよう県に要請する考えはいかに	

8 医薬品引換券の配布について	1 敬老金等支給事業の中で75歳以上の高齢者に対して配布していた医薬品券の配布が令和3年度に廃止され4年が経過するが、高齢者にとって医薬品の需要が非常に高いことから大変喜ばれる事業であったと考えるため、医薬品引換券の配布を再開する考えについて問う	(1) 本市においても高齢者が増加する中で、事業効果が高いと思われる医薬品引換券の配布を再開する考えはいかにかに	
------------------------	--	---	--